

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第五小学校

校長 佐々木 康雄

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査結果の分析を通して、教育活動の成果と課題を検証し、改善を図っていくことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、教育指導の充実や学習状況の改善等を行い、児童が「見方・考え方」を働かせ、学力向上につながるような授業づくり等、より具体的な指導方法の改善工夫を図ってまいります。そして、児童の確かな学力を育むことにつなげてまいります。各ご家庭におかれましては、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語〈概要〉

本校児童の平均正答率は、「情報の扱い方に関する事項」以外のすべての領域において全国値をやや下回っているあるいは下回っている。

#### ●国語〈各領域における成果と課題と、指導改善のポイント〉

##### 話すこと・聞くこと

- ・正答率は、全国値を下回っている。
- ・無解答率が高い。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの内容を捉えることが苦手である。
- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることがやや苦手である。

##### 書くこと

- ・正答率は、全国値を下回っている。
- ・資料を読み取り、自分の考えが伝わるように書き表すことが苦手である。

##### 読むこと

- ・正答率は、全国値をやや下回っている。
- ・中心となる語や文を見つけて要約することができている。
- ・文章を読んで理解したことについて、自分の考えをまとめることができている。
- ・文章と図表などを結びつけるなど、必要な情報を見つけることが苦手である。

##### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正答率は、全国値を下回っている。
- ・漢字を文の中で正しく使うことにやや課題がある。
- ・日常よく使われる敬語についてやや課題がある。

#### ●国語科における今後の改善点について

##### ◇主な課題

- ①目的や意図を明確にしながら話し合い、必要なことを質問しながら自分の考えをまとめること。
- ②文章と資料を結び付けて読むこと、そこから自分の考えをまとめること。
- ③文の中で言葉や漢字を正しく使うこと。

◇指導改善のポイント

※話し合い活動を継続して行い、相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめ、伝える機会を増やしていく。

※漢字の力を定着させるように既習漢字の復習と、日常よく使われる敬語について普段から意識して使わせることで習得を目指す。(山五漢字検定など使用)

●算数《概要》

- ・本校児童の平均正答率は、全国値を下回っている。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・全国値を下回っている。
- ・一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができている。
- ・( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができている。
- ・(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに課題がある。
- ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることに課題がある。
- ・加法と乗法の混合した計算をしたり、分配法則を用いたりすることに課題がある。

図形

- ・全国値をやや下回っている。
- ・正方形や正三角形の意味や性質について理解しているが、台形の意味や性質についてはやや課題がある。
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

変化と関係

- ・全国値を下回っている。
- ・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ったり、説明に必要な適切な数の組を選んだりすることができている。
- ・比例の関係をを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。
- ・百分率で表された割合について理解することに課題がある。

データの活用

- ・全国値を下回っている。
- ・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することについて課題がある。
- ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①四則の混合した式や、分配法則を用いた式を正しく計算すること。
- ②図形の意味や性質、構成の仕方を理解すること。
- ③比例や割合の意味を理解すること。

◇指導の改善ポイント

- ※いろいろな型の計算を繰り返し練習する。
- ※関連している単元の時に既習内容の課題を振り返る。
- ※学習したことを生活に結び付けていく。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・毎日朝食を食べている児童の割合は大阪府・全国値をやや下回っている。
- ・毎日決まった時刻に就寝している児童の割合は大阪府・全国値を上回っている。
- ・毎日決まった時刻に起床している児童の割合は全国値をやや上回っている。
- ・自分には良いところがあるという自己肯定感を持つ児童は大阪府・全国値を大幅に上回っている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童は、大阪府・全国値より上回っている。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・人が困っているときはすすんで助けている児童は、大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・学校に行くのが楽しいと思う児童は、大阪府・全国値を上回っている。
- ・友達関係に満足しているかという質問に対して、100%の児童が肯定的な回答をしている。
- ・自分でやると決めたことをやり遂げるようにしている児童は大阪府・全国値を上回っている。
- ・学校の授業時間以外で読書・勉強をしている時間が全国値より短い。
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う児童が、大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・地域の行事に参加していると答えた児童は全国値より少ないが、地域や社会をよくするために何かしてみたいと答えた児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないという質問に、ほぼ全員が肯定的な回答をしている。

### 【教科・学習について】

- ・授業で、コンピュータなどの ICT 機器を使ったのは「週3回以上」「毎日」という回答を合わせると77%で、全国値を15%以上、上回っている。
- ・学校でコンピュータなどの ICT 機器を使うことは勉強の役に立っていると回答した児童は大阪府の値を上回っている。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童は、大阪府・全国値を上回っている。
- ・友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかという質問に肯定的な回答をした児童は90%で、大阪府を大幅に上回っている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童は大阪府、全国値を上回っている。
- ・国語の授業が好きだと思っている児童は、全国値を下回っているが、大切だと思っている児童は85%を超えている。
- ・国語の授業で自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている児童が、大阪府・全国値を大きく上回っている。
- ・算数の授業が好きだと思っている児童は全国値を下回っているが、大切だと思っている児童は95%を超えている。
- ・算数の授業の内容がよくわかると回答した児童は大阪府・全国値を大きく上回っている。

## 3 今後の取り組み

本校では、「自ら考え 主体的に活動する 優しくたくましい子を育てる」を教育目標とし、「よく考える子、助け合う子、元気な子」を目指す子ども像に掲げ、日々教育活動に取り組んでおります。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、『山五漢字検定』に引き続き取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書(蔵書約 10,000 冊)や学級文庫を充実させると共に、読書の時間を設けるといった工夫により、昨年度の学校図書貸出冊数が約 10,000 冊を超えました。図書に関する企画としておすすめの本を紹介する「ビブリオカップ」も行っています。

算数科においては、一人ひとりを細かく見ていくための少人数指導や、計算力の定着を図るための『ダイヤモンド大作戦』を引き続き実施していきます。なお、ダイヤモンドは本校児童の課題に合わせて、改訂しています。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムと同時に授業を始める、指名された時返事をする、プリントなどに名前をていねいに書く、授業中、先生に敬語で話す、移動時はいすや机を整頓する、下敷き・定規や先のとがった鉛筆を使うといった学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

本校独自のモジュールやパワーアップタイム(PUT)では、各クラス様々な内容で児童の基礎学力や能力向上を目指しています。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」といった、主体的、対話的で深い学びにつながるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、タブレット、スマートフォンを使用することで犯罪などに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。一人一台タブレットを利用できる今、学校でも、全学年「携帯電話安全教室」を開き、自らルールを守りながら、正しく使用していく大切さを伝えています。ご家庭でも、正しく使用方法を話し合っ、取り組んでほしいと思います。

学習環境に関する結果からは、ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じる児童が多数いることが分かりました。一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標をもち、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する気持ち」をもつことが大切であると考えます。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことも、子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切に、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指していきます。

「15. 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」は今年から新設された質問です。本校児童は肯定的な回答をしている児童が100%となっています。これはウェルビーイング「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的な幸福な状態」が確保されているということです。児童の成長にとって大変重要な要素となります。自己肯定感も全国と比べても大変高いです。

これからも子どもたちが幸福や生きがいを感じられる学校づくりを心がけ、家庭・地域と連携し、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。